

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第6号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第6号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R2 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R2 (hr)	平年比 (%)
6月	1	21.3	23.2	1.9	27.6	28.1	0.5	16.1	18.4	2.3	25.4	0.0	0	29.5	28.4	96
	2	22.0	25.2	3.2	27.9	31.9	4.0	17.1	19.7	2.6	30.2	0.0	0	26.6	44.5	167
	3	22.6			27.9			18.1			40.9			24.0		
	4	23.2			28.0			19.3			57.8			21.2		
	5	23.8			28.2			20.4			76.2			17.6		
	6	24.4			28.5			21.3			86.7			16.1		

1) 6月2半旬の平均気温は平年に比べ3°Cほど高く、多照傾向で推移した。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：6月10日）

項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎数 本/m ²	主 稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ	本 年 値	60.5	625	12.2	40.5	・草丈は平年に比べやや低く、茎数は平年並み。 ・主稈出葉数は平年より0.4葉多い。葉色は平年並み。 ・幼穂長 5mm程度 ・幼穂形成始期 6/6頃
	平 年 値	62.4	638	11.8	40.5	
	平年比(差)	97	98	+0.4	±0.0	

※ 平年値は、H21～31年度の平均値

※ 耕種概要は稲作情報NO1参照

（管内の生育状況）

- 現在、生育ステージは、幼穂形成期を迎えている。
- 葉色が濃く旺盛な生育圃場において、葉いもち病斑（停止型）を確認した。
- 強い中干し後、急に湛水状態に移行した圃場において、根痛みによる葉先の黄化（写真1）を確認している。（かなり土壌表面が白乾した圃場にて確認している）



3. 今後の管理

（1）水管理

- ・「コシヒカリ」は、幼穂形成期を迎えています。

幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期ですが、湛水を長く行くと根を傷めるので、**引き続き間断灌水を行ってください**。ただし、**幼穂形成期以降に**、手のひらが縦にはいるようなヒビ(土壌表面が白乾状態になる)は、強い断根を伴い稲にとってダメージが大きくなるので行わない。

(2) 肥培管理

- 情報田の生育状況から判断すると、**出穂前21日頃**と推定されますが、圃場によりいくらかのバラツキはあります。
- 穂肥施用の目安は、**幼穂長15mm**の時(出穂前18日頃)に**群落葉色が3.3~3.7程度(36.0~39.5)**まで低下したら、**ゴールド有機50を10kg/10a施用**します。
必ず穂肥診断を行い、幼穂長と葉色の状況を確認し下記の葉色診断基準を参考にしてください。
ただし、いもちの病斑が上位3葉以内にある圃場では、穂肥で窒素濃度が高まり降雨が続くと、「いもち病」の好適発生条件となるため、穂肥施用量は減ずる。

表1 コシヒカリの出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	26	23	20	18	15	12
幼穂形成始期からの日数	0日	0~3日	3~6日	6~8日	8~11日	11~14日
幼穂長(mm)	1mm	1~3mm	8~12mm	15~20mm	25~30mm	30mm以上
草丈(cm)	~72cm	~75cm	~78cm	~80cm	~83cm	~
穂肥の施用時期				←→		

例) 幼穂長15~20mmの時(出穂前18日頃)が穂肥施用時期であるため、穂肥診断した時の**幼穂長が1mmの場合、その5日後に穂肥を施用する**。

【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
 - ② 葉色(群落・SPAD値)を測る。
 - ③ 上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
 - ④ 施用量が確認できたら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ※穂肥施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下(3.5以下)」になってからである。**

表2 穂肥診断基準

	葉色	葉色板		SPAD(値)	幼穂長(mm)	草丈(cm)	施用量 <ゴールド有機50>
		群落	単葉				
穂肥施用時	薄い	3.0以下	3.5以下	34.0以下	2	75まで	15Kg/10a
		3.0~3.3	3.5~3.8	34.0~36.0	5	78まで	
	標準	3.3~3.7	3.8~4.2	36.0~39.5	15	80まで	10Kg/10a
	濃い	3.7以上	4.2以上	39.5以上	15	80以上	施用しない!

例) 穂肥施用時期の**葉色(SPAD)が36.0~39.5、草丈が80cm以下**であれば、**ゴールド有機50を10kg/10a施用する**。

(3) その他

- 斑点米カメムシによる被害を軽減するために畦畔雑草の除草を6月20日頃までに終わらせましょう。**

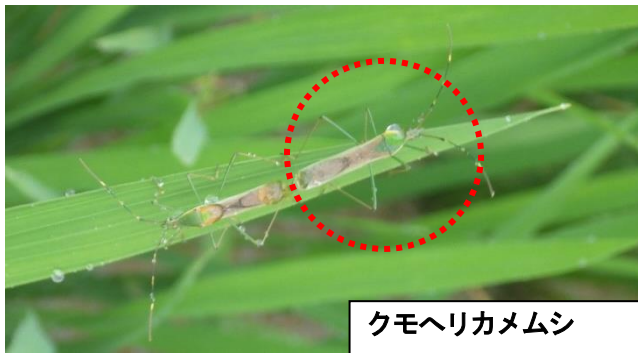
出穂10日前までの畦畔雑草の刈り取りは、斑点米カメムシの耕種的防除です。イネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努めてください。畦畔を100mあたり歩いて3頭いたら、要注意です。



エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている

管内における斑点米カメムシ等の20回すくいとり調査（6月10日）

地区	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカスジカスミカメ		シラホシカメムシ		アオクサカメムシ	
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
須古（畦畔）	0	4	1	3	14	4	3	1	0	26
須古	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
干拓	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

○最近の曇天で補植苗にいもち病（褐点型・停止型）を確認したので、今後曇天が続く場合は「いもち病」に要注意である。



葉いもち病



5. 普通期水稻の育苗管理

○今年は育苗期間が気温が高く推移したことで、被覆資材の除去が遅れたところでは苗丈が伸長し、軟弱徒長ぎみの苗となっている。特に夢しずくは露棚ができ、うっぺいした状態の苗床ではいもち病斑も確認している。

今後の天候次第では、他の品種でも「いもち病」の発生が懸念されるので、発生状態が甚だしい場合は、薬剤防除による対応を行きましょう。

○麦わらすき込みなど有機物施用を行った圃場では、ガスのわきが予想されるので、初期生育を促進するため、移植前日までには窒素成分で0.5g～1g/箱の弁当肥を施用しましょう。

「七タコシヒカリ」は特別栽培農産物の認証を受けるためにも、農薬成分回数9成分を超えないように注意しましょう！

☆☆七タコシヒカリ栽培暦に載っていない薬剤を使用する場合は、必ず指導機関に相談して行うこと！！☆☆